

2019年4月1日

報道関係者各位

株式会社キャピタル・アイ

◎BEST DEALS OF 2018 を選出：
POT のファストリ、年度最大 CB のLINE

キャピタルアイ・ニュースは1日、キャピタル・アイ Awards “BEST DEALS OF 2018” を発表した。引受証券会社と機関投資家へのアンケートをもとに編集部審査を加え、2018年度の債券・株式発行市場における優良案件・発行体を選出した。

普通社債部門では、POT方式で大型案件を成功させたファーストリテイリングが受賞。事業会社で相次いだハイブリッド債のなかでは楽天が特別賞を獲得。普通社債でアシックス、財投機関債等で日本学生支援機構、転換社債型新株予約権付社債(CB)で住友林業が受賞し、ESG投資の拡大を印象づけた。

地方債では10年物の需給を改善させた愛知県が受賞。ロイズ・バンキング・グループは、過去最大となった非居住者の円債市場で口火を切った。外債では武田薬品工業とセブン&アイ・ホールディングスがM&Aに絡むファイナンスで賞を獲得している。IPOのラクスルはビジネスモデルの独自性が評価され、赤字上場ながら高い支持を得た。CBでは当年度最大のLINEが受賞。三井不動産ロジスティクスパーク投資法人は優良な物流系リートとして存在感を示した。

以下が受賞リスト(〈〉内は主幹事/株式のグローバル案件はグローバル・コーディネーター、日付は条件決定日/決議日)。

普通社債部門

BEST DEALS OF 2018

第 5 回 ファーストリテイリング債 5 月 30 日 5 年 800 億円

〈野村/三菱UFJモルガン・スタンレー/SMBC日興/みずほ〉

第 6 回 ファーストリテイリング債 5 月 30 日 7 年 300 億円

〈野村/三菱UFJモルガン・スタンレー/SMBC日興/みずほ〉

第 7 回 ファーストリテイリング債 5 月 30 日 10 年 1000 億円

〈SMBC日興/三菱UFJモルガン・スタンレー/野村/みずほ〉

第 8 回 ファーストリテイリング債 5 月 30 日 20 年 400 億円

〈三菱UFJモルガン・スタンレー/SMBC日興/野村/みずほ〉

ハイブリッド債とグリーンボンドを除く国内シニア債で初となる POT 方式で、総額 2500 億円を調達した。透明性・公平性の高いマーケティングとアロケーションを行い、投資家数は延べ約 300 件と全員参加型のディールとなり、最終需要の総額はおよそ 3400 億円に上った。長期・超長期ゾーンで多く資金を取るという発行体の目標も達成した。

特別賞

劣後第 1 回 楽天債 12 月 7 日 35 年 (NC5) 1400 億円

〈みずほ/SMBC日興/三菱UFJモルガン・スタンレー/大和/ゴールドマン・サックス〉

劣後第 2 回 楽天債 12 月 7 日 37 年 (NC7) 290 億円

〈大和/みずほ/SMBC日興/三菱UFJモルガン・スタンレー〉

劣後第 3 回 楽天債 12 月 7 日 40 年 (NC10) 130 億円

〈SMBC日興/みずほ/三菱UFJモルガン・スタンレー/大和〉

トリプル B 格で過去最大のホールセール案件。計 50 件超の個別訪問と約 2 週間におよぶマーケティングで、多くの投資家が参加できる水準を追求した。今後のトリプル B 格や劣後債の市場拡大に資する案件となった。

特別賞

第 2 回 アシックス債 (サステナビリティボンド) 3 月 7 日 5 年 200 億円

〈三菱UFJモルガン・スタンレー/SMBC日興/野村/みずほ/BNPパリバ/大和〉

国内一般事業会社で初めてのサステナビリティボンド。研究費用や介護予防事業などの開設・運営費用、米国の自社倉庫の屋上ソーラーパネル設置費などを調達するための起債だった。債券の特性を生かしつつ並走銘柄の状況を踏まえたプライスに仕上げ、投資家層の拡大を実現した。

BEST ISSUER OF 2018

該当なし

財投機関債等部門

BEST DEAL OF 2018

第 52 回 日本学生支援機構債

8 月 24 日 2 年 300 億円

〈三菱UFJモルガン・スタンレー/みずほ/野村〉

発行体として初めてのソーシャルボンド。資金使途の第二種奨学金の貸与事業が、SDGs のうち「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」の達成に貢献するとし、ソーシャル化した。新たな発行体が加わり、日本の ESG 債市場発展に寄与した。

BEST ISSUER OF 2018

日本政策投資銀行

毎四半期の 3 年・5 年・10 年債の定例発行に加え、20 年・25 年・40 年ゾーンにも登場。国内で総額 3200 億円を調達した。毎回フェアバリューを追求する姿勢が当年度も高い評価を得た。なかでも 1 月債では、年末年始の金利急低下局面でいち早く財投機関債の適正水準を見いだし、10 年債で先行プラス 2bp に調整。公共セクターの立て直しに繋がる起債を行った。需要が盛り上がった短期年限でも、ボラティリティの高さに配慮して先行並みとした。

地方債等部門

BEST DEAL OF 2018

平成 30 年度第 18 回 愛知県債

2 月 6 日 10 年 300 億円

〈大和/みずほ/野村〉

地方債の基軸年限である 10 年債の需給を立て直した。年末・年始の金利急低下によってセカンダリーでワイド化が進んだが 1 月債では調整されず販売が難航。そこへ、愛知県が 2 月の先頭銘柄としてそれまでの国債カーブ+13bp から+15bp へ 2bp の上方修正を行った。後続の安定消化にも資する案件だった。

特別賞

第 1 回 静岡県債

11 月 16 日

5 年 1 億ドル

〈野村〉

第 1 回 静岡県債

11 月 20 日

10 年 1 億カナダ・ドル

〈ゴールドマン・サックス〉

地方債市場で初めての外貨建て国内債で、外貨建て国内公募債としても初。新しい商品の供給が奏功して円建て地方債では稼働しない投資家が参加し、市場の拡大に貢献した。外債と同様の短いスケジュールでのプライシングも画期的だった。

BEST ISSUER OF 2018

福岡県

超長期債で年度総合主幹事グループ制を採用し、市場との継続的な対話を通じて適切な年限や起債時期を決めている。5 年物も主幹事方式で、10 年では競争型幹事という主幹事方式に近い起債手法を採用。2 月の 10 年定時償還債では金利の急低下に対応し、スプレッドに替わって絶対値でのプライシングを実施して需要を喚起した。

非居住者円債部門

BEST DEALS OF 2018

第 6 回	ロイズ・バンキング・グループ債	5 月 24 日	5 年	1319 億円
第 7 回	ロイズ・バンキング・グループ債	5 月 24 日	10 年	313 億円
第 8 回	ロイズ・バンキング・グループ債	5 月 24 日	15 年	58 億円

〈三菱UFJモルガン・スタンレー/みずほ/野村/SMBC日興〉

金融庁による TLAC/MREL 債のガイドライン提示後最初の案件。リスクウェイトがシニア債と同等の扱いになることが地域金融機関の買い意欲を刺激し、発行体のサムライ債で過去最大規模の総額 1690 億円のディールとなった。同債でできた勢いが後続案件に好影響を与え、ユーロ円債を含む非居住者円債の年度での発行額が過去最大となるきっかけにもなった。

特別賞

第 17 回	韓国輸出入銀行債	6 月 21 日	1 年 6 ヶ月	700 億円
第 18 回	韓国輸出入銀行債	6 月 21 日	3 年	500 億円

〈大和/メルリリンチ日本/三菱UFJモルガン・スタンレー/みずほ〉

米朝首脳による歴史的な会談を終え、韓国クレジットのモメンタムが良好になったところにいち早く登場した案件。1.5 年・3 年債の短期ゾーンで総額 1200 億円のディールに対し、2500 億円規模の買いを取り込んで後続の韓国物にバトンを渡した。日韓関係の冷え込みにも関わらず、2018 年度の韓国物サムライ債の供給額は 3000 億円を優に超えた。

BEST ISSUER OF 2018

クレディ・アグリコル

計 4 回のディールで 2915 億円を供給し、高いプレゼンスを示した。機関投資家向けでは年度前半の 6 月にサムライ債市場でシニア債・TLAC 債を発行。後半の 11 月は、Brexit やイタリア財政問題で欧州市場が不安定な状況を受け、機動的な起債を重視してユーロ円債市場で TLAC 債・劣後債を初めて起債した。TLAC/MREL 債特需が続くなかで、3 月には再びユーロ円債を選び、地域金融機関の強い買いを集めた。

証券化部門

BEST DEAL OF 2018

該当なし

BEST ISSUER OF 2018

住宅金融支援機構

15 件・2 兆円超の RMBS を供給し、日本の証券化市場を維持・発展させている。適正なプライシングで、月次償は毎回 1000 億円を超える規模を円滑に消化した。6 月には既往債権を対象とする短期年限の新シリーズ T 種債を開始し、計 3 本を発行した。

外債部門

BEST DEALS OF 2018

武田薬品工業 グローバル債	11 月 15 日	2 年	12 億 5000 万ユーロ
武田薬品工業 グローバル債	11 月 15 日	4 年	15 億ユーロ
武田薬品工業 グローバル債	11 月 15 日	8 年	15 億ユーロ
武田薬品工業 グローバル債	11 月 15 日	12 年	15 億ユーロ
武田薬品工業 グローバル債	11 月 15 日	変動 2 年	10 億ユーロ
武田薬品工業 グローバル債	11 月 15 日	変動 4 年	7 億 5000 万ユーロ

〈JPモルガン/SMBC日興/モルガン・スタンレー/バークレイズ/BNPパリバ/HSBC〉

武田薬品工業 グローバル債	11 月 19 日	2 年	10 億ドル
武田薬品工業 グローバル債	11 月 19 日	3 年	12 億 5000 万ドル
武田薬品工業 グローバル債	11 月 19 日	5 年	15 億ドル
武田薬品工業 グローバル債	11 月 19 日	10 年	17 億 5000 万ドル

〈JPモルガン/SMBC日興/モルガン・スタンレー/みずほ/BOAメリルリンチ〉

本邦企業で過去最大となる 6 兆円規模のシャイアー買収資金のファイナンス。まずユーロ建て債で非欧米企業として史上最大の 75 億ユーロを調達し、同債での勢いを本邦企業で最大の 55 億ドルのドル債が引き継ぎ、総額 140 億ドル相当のメガディールを成功裏に終えた。M&A が不成立となった場合の対応として、101%で償還する Special Mandatory Redemption 条項に加え、1 年後に SEC 登録債になる Registration Rights の採用がグローバル投資家の関心を引き寄せた。

特別賞

セブン&アイ・ホールディングス グローバル債 9 月 11 日 3 年 6 億ドル

〈野村/SMBC日興/モルガン・スタンレー/みずほ〉

外債でのデビュー案件で、2018 年 1 月のスノコ買収を皮切りとした海外事業の拡大と調達ソースを多様化させるうえで戦略的に重要なディール。本邦コーポレート物でも高い格付けに加え、希少性の高い小売セクターであることを訴求し、発行額の 5 倍程度となる 30 億ドル規模の買いを取り込んだ。セブンイレブンの抜群の知名度が、通常であれば初回償に対して様子見をする大手ファンドマネジャーの“来店”につながった。

BEST ISSUER OF 2018

三菱UFJフィナンシャル・グループ

2018 年度は過去最大となる 131 億ドルをグローバル市場で調達し、年度を通じて高い流動性を供給した。TLAC 規制への対応を進めつつ投資家基盤の拡大に取り組み、3 年・20 年債という初の年限を発行。2 月の 5 本立て債では総額 55 億ドルと、本邦発行体として武田薬品工業に並ぶ最大規模の起債を実現した。ユーロ建て債は総額 8 億 5000 万ユーロを発行し、グリーンボンドでは新たな買い手を掘り起こした。

新規公開株式 公募・売出部門

BEST DEAL OF 2018

ラクスル 5 月 31 日上場 公募・売出：1094 万 9900 株 164 億 2485 万円
〈大和/三菱UFJモルガン・スタンレー/みずほ〉

印刷・集客支援のシェアリングプラットフォームの運営というビジネスモデルの独自性と成長ポテンシャルの高さが評価され、赤字上場ながら、海外のロング投資家から個人投資家まで幅広い支持を集めた。上場後の株価も好調。

既公開株式 公募・売出部門

BEST DEAL OF 2018

該当なし

不動産投資信託証券部門

BEST DEAL OF 2018

三井不動産ロジスティクスパーク投資法人 1 月 9 日 公募：11 万 700 口 347 億 5825 万 200 円
〈大和/野村/SMBC日興〉

発行体初のグローバル・オファリングで、物流系リートのパフォーマンスが低下するなか、「質の伴う成長」を示した。スポンサーサポートによる割安な物件取得や LTV の低さを活かした年率 8% の DPU 成長により、新規の海外投資家を呼び込む旺盛な需要を喚起した。

BEST ISSUER OF 2018

コンフォリア・レジデンシャル投資法人

6 年連続で年初にローンチし、希少性が高い住宅特化型リートの PO を待望する投資家の期待に応えた。今回は賃料の上昇余地が大きい東京 23 区の物件に限定し、初の海外販売にも挑戦。オファリング期間中の投資口価格は 4% 近く上昇し、過去最大の上げ幅を記録した。

転換社債型新株予約権付社債部門

BEST DEALS OF 2018

LINE ユーロ円 CB	9 月 4 日	5 年	365 億 8000 万円
LINE ユーロ円 CB	9 月 4 日	7 年	365 億 8000 万円

〈モルガン・スタンレー/野村/JPモルガン/ゴールドマン・サックス/みずほ〉

当年度最大の案件を成功裏に遂行した。出資比率を維持するため、半分を親会社に割り当てる手法を採用。合計 1479 億円を調達し、LINE Pay を始めとするフィンテックや AI など成長分野への投資資金に充てた。ストラクチャーの説明や親会社による貸株提供など、投資家との対話を入念に行った。

BEST DEAL OF 2018

SB I ホールディングス ユーロ円 CB	8 月 28 日	5 年	500 億円
-----------------------	----------	-----	--------

〈大和〉

2 年連続で 4 回目のユーロ円 CB。今回はアップ率を固定し、募集価格で需要を募るストラクチャーに挑戦した。株価が 1 年前の 2 倍に上昇するなか、既発債のパフォーマンスの良さが好感され、アウトライトの旺盛な需要を獲得した。

特別賞

住友林業 ユーロ円 CB	9 月 11 日	5 年	100 億円
--------------	----------	-----	--------

〈大和〉

世界初のグリーン CB。2016 年度に買収したニュージーランド山林資産を対象プロジェクトとし、大手評価機関から「グリーンボンド原則」に則したセカンドパーティ・オピニオンを取得した。エクイティ性のファイナンスを通じて ESG 投資が可能なことを示した革新的な案件。

■キャピタル・アイ Awards とは：

当年度の資本市場でなされたファイナンスのなかで最も優れた案件は何か、発行体は誰か、普通社債、財投機関債、地方債、非居住者円債、外債（日本企業による海外発行債）、証券化、新規公開株式、既公開株式、不動産投資信託証券（J-REIT）、転換社債型新株予約権付社債（CB）の各部門にわたって引受証券会社と機関投資家へアンケートを実施。回答をもとに、市場に円滑に受け入れられたか、市場にとって意義があったか、市場の発展や活性化に資するかなどの観点で編集部が選出し、表彰する。

◆株式会社キャピタル・アイについて

所在地：東京都千代田区西神田 3-1-6 日本弘道会ビル

設立：2006 年 7 月

資本金：8 千万円

主な事業の内容：金融市場に関するオンライン情報サービス（ニュース及びデータベース等）

金融専門誌や関連書籍の製作・発行

【債券・株式資本市場のプロフェッショナル向けリアルタイム情報サービス「キャピタルアイ・

ニュース」を提供しています。債券分野では普通社債、財投機関債、政府保証債など債券発行市場を幅広くカバーし、一般債セカンダリー市場や CDS 市場、CP 市場などのニュースも配信しています。株式分野では株式、不動産投資信託証券、転換社債型新株予約権付社債のほか、M&A 関連や貸株の市場動向などを報道しています。】

ホームページ <http://c-eye.ne.jp>(契約者サイト)／ <http://c-eye.co.jp>(公開サイト)

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社キャピタル・アイ

編集部:菊地健之 03-6826-4721